特集

犠牲者にならない、犠牲者を出さないための「災害時要援護者避難支援プラン」

災害に負けない支え合いの地域づくりへ

災害時には、行政、消防や消防団、警察、自衛隊などが、住民の避難誘導から現場の復旧復興まで、さまざまな公的支援を行います。しかし、自然災害の発生そのものを防ぐことは、だれにもできません。大規模な災害に見舞われるたび、耳にするのは災害弱者の犠牲…そんななか、近隣の力により救出されたニュースなどを聞くと、ほっと胸をなでおろす思いがします。

心細さを味わったことがない、という人はいないと思います。状況が飲み込めず戸惑ったとき、ひとりでがんばらないといけないとき、だいじょうぶですか？と声をかけられたら、どれほど勇気づけられるかわかりません。そうした経験があればこそ、人は人にやさしくできるのだと思います。

災害時要援護者避難支援プランは、災害が発生した際に、情報の入手や避難の判断、すみやかな避難が困難な人（ひとり暮らしの高齢者や障害のある人など）を、地域ぐるみでサポートするガイドライン。「がんばりたくても、自分だけではがんばれない人を、みんなで手助けしましょうよ！」「応援が必要な人は、この機会に手を挙げてくださいね」という計画です。災害被害を最小限に食い止め、尊い人命を守るため、まずは隣近所から、お互いさまの気持ちで、助け合いの輪を広げていきましょう。

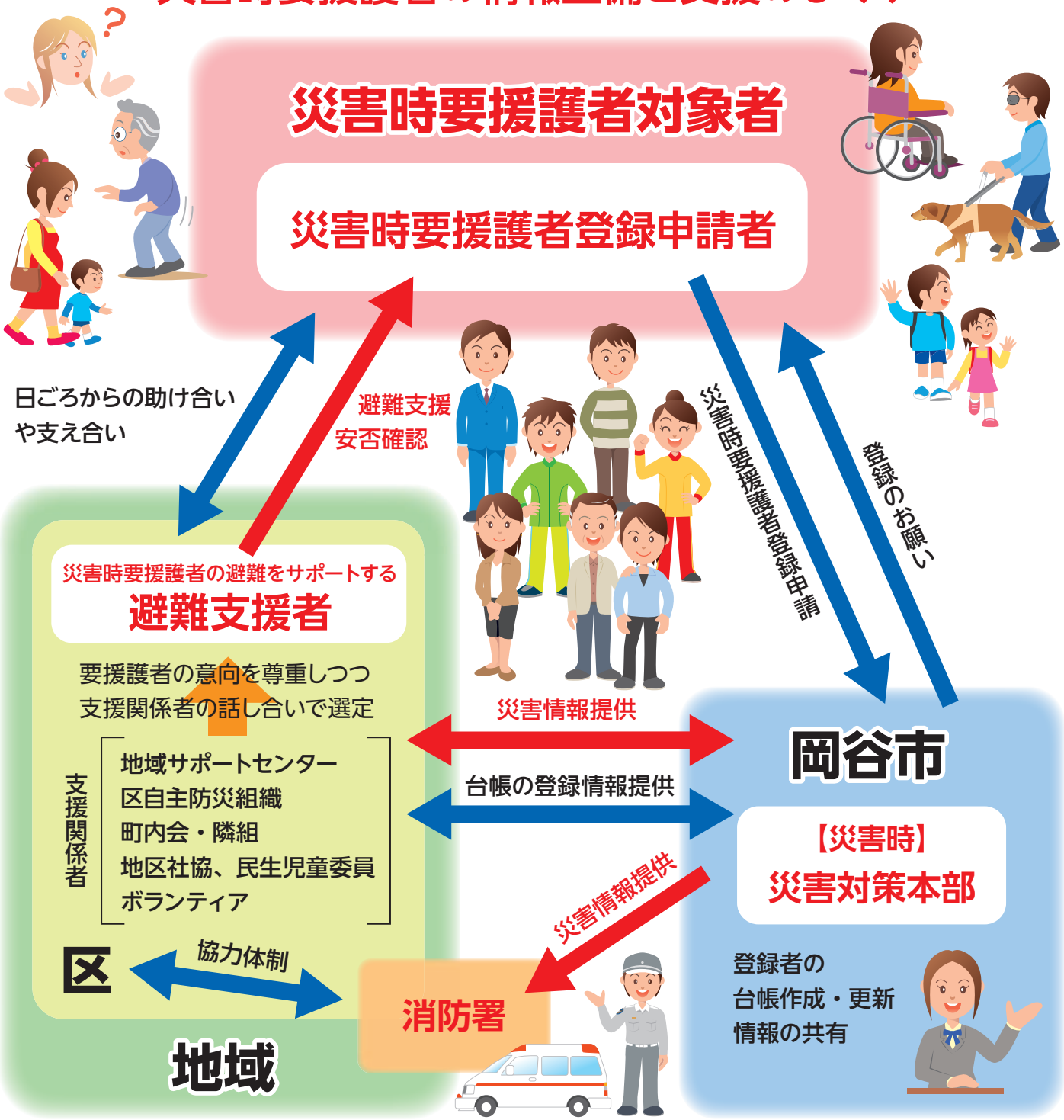
災害時要援護者避難支援プランまるわかり

災害時要援護者って？

災害発生時に、避難情報の入手、避難の判断、避難行動を自ら行うことが困難な人をいいます。

●要介護・要支援認定者　●ひとり暮らしの高齢者　●高齢者のみの世帯　●身体障害者
●知的障害者　●精神障害者　●発達障害者　●難病患者　●乳幼児・児童
●妊産婦　●日本語が話せない・地域に慣れていないなどの外国人　など

災害時要援護者の情報整備と支援のしくみ



支援者はどんな人？…その役割は？

避難支援者は、災害時に援護を希望する人（要援護者）本人の意向を踏まえ、地域の支援組織と連携して選定します（複数名／人）。避難支援者は、要援護者に、災害に関する情報を伝えたり、実際に一緒に避難したりするなどの支援を行います。いざというとき円滑に活動ができるように、日ごろから見まもりや声かけもお願いします。

行政の役割は？

市は、要援護者と支援者の同意を得て、緊急時の連絡先や避難誘導の際の留意事項などを記載した災害時要援護者の登録台帳を作成。その情報を区に提供することにより、地域における情報伝達や避難誘導などの避難支援体制を整備、だれもが安心して暮らすことのできる地域づくりを進めます。

※登録台帳の個人情報は、地域の支援組織（防災組織や民生委員など）に公開、関係者が共有し、支援体制充実を図ります。要援護者、避難支援者とも、個人情報の提供に同意していただくことになりますが、記載情報を外部に漏らすことはありません。

地域の役割は？

日ごろから、訓練への参加、自宅内外と周辺の安全確保、持ち出し品のチェックなどを行い、災害に備えていることが大切です。自分でできることはまず自分で、と心がけるとともに、地域の人と声をかけあえる関係をつくっておきましょう。また、地域には、災害時に援助の必要な要援護者がいることを理解し、協力して助け合えば、大きなちからを発揮できることを意識しましょう。

災害時要援護者避難支援は、地域の安全は地域のみんなで守ろうという共助の精神に基づく地域活動です。災害の発生が予想される場合などには、地域住民も支援者と協力、地域に根づく〝助け合いネットワーク〟で、ともに避難支援を行います。

支援してもらうには、どうしたらいいの？

避難支援プラン個別計画の用紙に記入し、市（区）に提出することで登録が完了、災害時要援護者となります。プランの内容、用紙の入手など、詳しくは、お問い合わせください。

問合せ●社会福祉課（内線1251・1252）

災害時要援護者避難支援プランに寄せて

岡谷市身体障害者福祉協会 会長
大和 邦彦さん

障害者や高齢者は、殻に閉じこもってしまいがちです。防災意識は持っていても、どうしていいかわからない。訓練などに参加するのがむずかしい状態の人も少なくありません。垣根を飛び越えて自分から人の輪に入れば、まわりの人も理解し助けてくれますから、外へ意欲を向けることが大切、しかし現実には、助けが必要な重度の人ほど、一歩を踏み出すのをためらってしまう傾向にあります。自分をさらけ出しアピールするのが苦手…という人も多いなか、このプランを、障害者がまわりと手をつなぐきっかけにできればと思います。勇気を出して手を挙げる！「要援護者です、お願いします」と声を発し「ありがとう」と感謝する。障害者が自らの世界を広げ、社会参加するチャンスにしたいです。支援者を決める際には、障害者本人の意向を聞いていただけると助かります。この人に、という具体的な意向がない場合でも、同性がいい、同年代の人になど、希望を聞いてもらえると、戸惑うことがなくシステムになじめると思います。

左から大和さん、今井さん、山岡さん

岡谷市身体障害者福祉協会 事務局長 **今井 彰さん**

外に出ると、みなさんよく声をかけてくださいますし、近所のみなさんが、関心を持っていてくれるのも心強いですね。わたしも以前は引きこもりでしたが、今は介助者のおかげと、協会の活動もあり、積極的な自分に変わることができました。市内には、視覚障害を持つひとり暮らしの人が70人ほどいますので、避難支援者の制度が確立され、機能するようになれば、とても安心だと思います。せっかくのプランですので、音声コードだけでなく、点字もあるとより周知しやすいですね。「音読やまびこの会」や点字サークルのみなさんには、いつもお世話になり、心から感謝しています。多くの人の支えが、わたしたちのパワーの源です。

今井さんのガイドヘルパー **山岡扶佐子さん**

できないことは手伝ってもらう…障害者も健常者も、だれにとっても同じですよね。「すみません、お願いします」といえば、まわりの人は、当然のように手助けしてくれます。障害者のなかには、オープンマインドになれない人もいますし、ゆっくりでも自分でできる、自分でやりたいという人もいます。一般のみなさんには、彼らのリズムで待つことも大事、ということを理解していただけたらと思います。一刻を争う災害時は別ですけれど、ふだんは介助を押しつけるのではなく「お手伝いすることは、ありますか？」というスタンスがちょうどいいのかもしれません。障害者が外とつながる機会は貴重です。介助者や障害者仲間とだけでなく、地域の人、いろんな年代のさまざまな人とつきあい、社会参加していくためにも、助け合いの輪が広がることに期待しています。

西堀区高齢者クラブ 桜寿会 会長 **杉山 武さん**

足腰が弱くなり、対応力が衰える高齢者は、大災害が続いて起きたことで、不安を強くしています。家族で日常的に話し合っておくのはもちろんですが、デイサービスなどを利用している人も多いので、施設との連携を含め、隣組、町内会、区のサポートセンターの人が集まって、具体的な取り決めをしていかなければと考えているところでしたので、プランが地域を束ねるツールになると期待を持ちました。突発的な事態となれば、近隣の協力がカギになりますから、声をかけ、助け合える関係を築いておきたいものです。また、避難の妨げとなるような障害をふだんから取り除いておくことも大切ですね。プランについては今後、市に「出前講座」を頼むなどして周知を図り、地域防災に活かしていきたいです。

岡谷市手をつなぐ親の会 会長 **宮坂 久雄さん**

災害が起きた場合、発達障害の子は、パニックを起こす可能性が考えられますし、自分で判断することができない知的障害の子どもは、指示なしに動くことができません。また、慣れている場所でないと子どもたちは安心できないので、避難施設についても、真剣に考えておく必要があり、障害を理解できる身近な人の支援が欠かせません。わが家の場合、高齢者の母と知的障害の子どもがいますが、立場的に家のことは後まわしになってしまうので、隣近所には状況を説明し、つねにお願いしてあります。家族がいてもまわりの手助けが必要な場合は多いんです。親の会でも障老介護が増え、親が元気なうちに、子どもの将来的な行き先を見届けたい、という話もよく聞きます。そうした意味でも、まわりに体制が整う、地域でお互いを守り合う、このプランは希望になると思います。支援者が地域のリーダーになり、区の防災の取り組みを支え、活動していくことで、地域の安全・安心のネットワークを強めていくことができるのではないでしょうか。